

北館神社崇敬会趣意書

北館神社は、庄内平野を一望する狩川の笠山に鎮座し、北館大学助利長公を祀っております。

大学公は慶長六年狩川に赴任し、館山を居城とし狩川、清川、立谷沢の三村の統治に当たっております。

往時、最上川沿いの地は沃野広漠にして垣々とした平野ながら、住む人少なく、生活困窮著しいのを見た大学公、領地を檢分、大河に倒れるも平野を潤す水のないことが荒蕪の状況をなす原因であることを覺ります。

領民の生活を豊かにする殖産興業が、領主の努めと悟る大学公、不毛の地を潤す疎水事業を行う決心をされました。以来水源を求めて東奔西走すること十年、遂に立谷沢川の水を引くより他無いことを覺ります。

立案の上、主君最上義光に大堰開削の許可を請願し、大堰を開削されました。時に慶長一七年七月のことでありました。工事は難儀を極めるものでありましたが、稀なる運の強さか、艱難辛苦の末見事完成を果たされたのであります。

開削された大堰の潤沢な水の恩恵によって、次第に多くの田んぼが切り開かれ、多くの人々が働くこととなり、多くの集落が生まれました。大学公は文武両道に優れたのみならず、殖産興業に尽力され、この地域発展の礎を築かれたのであります。

今日、地域発展の礎について省みられることも薄れ、潤沢な水の恩恵にも慣れ、感謝の心は失われようとしています。大学公の偉業忘れることなく、感謝の真心を後々まで伝えることが肝要ではないでしょうか。

大学公に感謝し崇敬の念絶やすことなく、お互いに奉仕の真心を捧げようではありませんか。何卒、この趣旨にご賛同くだされ、ご入会をお願い申しあげます。

平成十六年一月吉日

北館神社崇敬会

発起人

最上川土地改良区	前理事長	阿部 繁雄
同	理事長	田澤 伸一
同		理事 一同
立川町長		清野 義勝
余目町長		原田 眞樹
酒田市議会	議長	阿部 與士男
前田製管株式会社	会長	前田 直巳
庄内たがわ農業協同組合	代表理事組合長	大久保 鉄夫
余目町農業協同組合	代表理事組合長	小関 長一郎
大椿山見龍寺	住職	池田 好雄